

# 没後 15 年記念 松永伍一展 ～ 詩・絵画・子守唄… ～

詩人の松永伍一にとって、浅間山麓は創作活動に深く関わる場所でした。福岡での青年時代、堀辰雄を愛読し軽井沢に憧れを抱いていた松永は、1966 年、知人に紹介された北軽井沢の貸別荘で初めて夏を過ごし、高原の生活に魅了されました。

2 年後の 1968 年、松永はすでに『日本農民詩史』の執筆に入っていたため、集中できる場所を探して浅間開拓地の一角に山荘を建てました。夏の山小屋暮らしは、その後、晩年まで約 40 年間続きました。その山荘で『日本農民詩史』全五巻 6000 枚の内の半分をはじめ、『荘厳なる詩祭』『一揆論』『平家伝説』『高原の翳り』『子守唄の人生』『西行幻想』などを書き下ろしました。

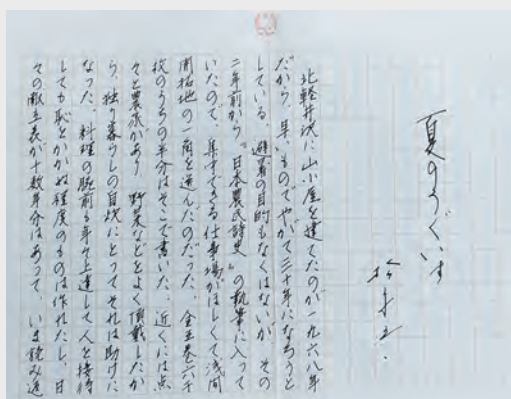
本年は、詩人・評論家松永伍一（1930-2008）の没後 15 年にあたり、ゆかりの場所であった軽井沢高原で、松永の文業を振り返る展覧会を開催いたします。自筆原稿、絵画、書、遺愛の品などのほか、松永が軽井沢で交流を深めた文学者の資料等も合わせて約 200 点を紹介します。



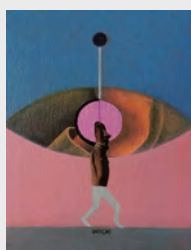
松永伍一 初めて北軽井沢で夏を過ごした 1966 年頃



堀多恵子（堀辰雄夫人・左）と松永  
2000 年 8 月 7 日、軽井沢高原文庫の会で。



松永伍一「夏のうぐいす」原稿  
「軽井沢高原文庫通信」第 36 号（1997 年 9 月）に掲載



松永伍一・画

【松永伍一】詩人・評論家。1930（昭和 5）年、福岡県三潴（みずま）郡大莞（おおい）村（現：大木町）に生まれる。福岡県立八女中学校在籍時、東京から疎開してきた詩人・川崎洋と友人になり、詩作を勧められたことをきっかけに、文芸の道を歩み始める。花宗中学校助教諭時代、教務の傍ら、文芸部の顧問を務め、文芸部雑誌「河童園」を創刊、また自らも処女詩集『青天井』を出版する。歌人・柳原白蓮に才能を見出され、1957 年に上京する。1967～70 年に発表した『日本農民詩史』全五巻で毎日出版文化賞特別賞受賞。以後、全国各地の子守唄を取材した『子守唄の人生』、『一揆論』などの民俗学的評論、評伝『青木繁』のほか、美術評論、旅行記、エッセイなど幅広い方面にわたり旺盛な文筆活動を展開した。その傍ら、水彩・油彩を描き、20 回余り個展も開いた。2008（平成 20）年、東京にて死去。享年 77。

## 【関連イベント】

### 松永先生と子守唄

講師：西舘好子（日本らばい協会理事長）  
藤井秀亮 子守唄を歌う、松永先生の思い出連続ミニトーク（5 名）  
日時：6 月 10 日（土）午後 2 時～3 時半  
会場：軽井沢高原文庫中庭  
料金：1,500 円 / 学生・友の会会員 1,000 円  
定員：40 名程度  
※関連イベントは要予約。Eメール kogenbunko@yahoo.co.jp  
FAX 0267-45-6626 電話 0267-45-1175 でお申し込みください



松永伍一『青天井』

1954（昭和 29）年 4 月、母音社第一詩集。27 篇。農業に従事する経験をもとに、「日常語のもたらす美学」を狙い、平坦な言葉で書かれている。300 部限定。  
丸山豊・序詞。



松永伍一『日本農民詩史』全五冊

1967（昭和 42）年 10 月～1970（昭和 45）年 7 月、法政大学出版局近代日本における農民詩を細密かつ体系的に論じた大作。松永の代表作の一つ。毎日出版文化賞特別賞受賞。

次回企画展

● 夏季特別展「生誕 100 年記念 遠藤周作と軽井沢展」（仮称）2023 年 7 月 15 日（土）～10 月 1 日（日）

## 軽井沢高原文庫 THE LITERARY MUSEUM OF KARUIZAWA

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 202-3 TEL 0267-45-1175 FAX 0267-45-6626 <http://kogenbunko.jp>  
交通：JR 北陸新幹線・しなの鉄道「軽井沢駅」下車タクシー約 10 分、または、しなの鉄道「中軽井沢駅」下車、タクシー約 7 分。  
上信越自動車道・碓氷軽井沢 I.C. より車で約 15 分。